

研究会・部会・ 委員会・分科会	活動ビジョン・ゴール	年度目標	進捗・課題	予定・行動計画	関連団体等
食品安全研究会					
食品微生物研究部会	<p>食品産業会が抱える食品微生物関連の共通課題を、部会員が協同で(企業の枠を超えて)研究し解決を目指す。</p> <p>食品関連企業の微生物担当者が業務上の悩みや課題を相談・共有し相互解決できる場として機能する。</p> <p>当部会の研究成果を含む食品微生物に関する安全性等の情報について、広く周知活動を行う。</p>	<p>部会員が集まり定期的に交流や情報交換を行える場としての部会運営の再整備(アフターコロナ対応としての集まる場の整備)</p> <p>新規研究PJの立案および他機関との積極的な連携の実施</p>	<p><分科会活動></p> <p>(1) 芽胞菌研究分科会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進捗無し <p>(2) MALDI-TOF MS 研究分科会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進捗無し <p>(3) チルド勉強会</p> <p>a. ボツリヌス菌接種試験活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動なし(追加試験について日本缶詰びん詰レトルト食品協会にて調整中)。 <p>b. 耐熱性試験法検証活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第4弾試験考察のため、芽胞接種量と芽胞形成量の相関データを採取した。 <p>(4) 国際整合性のある食品微生物リスク管理研究分科会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・以下の読み合わせおよび和訳を継続実施中。 <p>FAO/WHO Microbiological Risk Assessment Series 24 "Statistical Aspects of Microbiological Criteria Related to Foods"</p> <p><全体></p>	<p>各分科会の研究活動に加え、各社が共通に抱える食品微生物関連の課題について、部会全体でのディスカッションおよび関連団体等との連携を通じ、課題抽出と解決策の検討を行う。</p>	<p>(公社) 日本缶詰びん詰レトルト食品協会</p> <p>(独) 製品評価技術基盤機構</p>

			10月6日(金)に部会会合および部会勉強会を三菱ケミカル株式会社(横浜市青葉区)にて開催予定。		
食品リスク研究部会	食品の安全性評価の考え方を学び、その普及に努める。	① 食品リスク研究に関する勉強会を3回以上開催し、情報発信する。 ② 「ナチュラルミステイク」の情報発信。	9月6日(水)に部会をWeb開催した。 ① 8月9日に昭和女子大学近藤一成先生を講師に「フードテックの安全性の考え方」について勉強会をWeb開催し、43名の参加があった。 ② 「ナチュラルミステイク」献本先の先生からのアンケート回答を確認した。内容に関しては全ての方にご賛同いただいた。	① 第2回勉強会は9月29日に琉球大学の水谷先生を講師に「微生物や微生物を用いた食品の安全性」についてWeb開催予定。第3回については11~12月で日程調整中。 ② 更なる情報発信のため、アンケートで得られた意見をもとに検討を行う。	
香料研究部会	食品香料の性質と安全性等に関し偏向の無い科学的な調査研究を行う。食品香料に関する正しい科学的共通理解を産・官・学に普及させる。	—	特になし。	—	—
食品領域の動物実験代替推進プロジェクト (AAT プロジェクト)					
全体進捗	<活動目的> 1) 動物に依存しない、毒性発現機序に基づいた、ヒトへの予測性のより高い評価アプローチを	・研究WGテーマ推進による評価技術基盤並びに評価戦略構築とケースレポートの作成。	・7月28日に開催された。ILSI 台湾主催シンポジウムにおいてプロジェクトの活動内容に関して発表(ビデオ発表)。 ・8月23日 プロジェクトの今後の活動方向性等に関する議論を目的	・9/11に全体会議を開催予定 ・日本動物実験代替法学会(11月)のシンポジウムにて発表予定。	・国立医薬品食品衛生研究所、独立行政法人製品評価技術基盤機構(NITE)、アカデミア等の専門家 ・関連学会(日本動物実験

	<p>確立し、食品の安全性および機能性評価の精緻化・効率化を進展させること。</p> <p>2) 動物愛護の世界的潮流の中で食品領域の取り組みを加速させること。</p>	<p>・情報収集・発信（国際ワークショップ内容のレポートによる発信、シンポジウムの開催）。</p>	<p>に、コアメンバー会議を開催（Web）。</p>		<p>代替法学会等）</p> <p>・ヨーロッパ、アジア等の ILSI 支部</p>
<p>体内暴露予測ワーキンググループ (WG)</p>	<p>食品成分の体内曝露を、動物を用いずに予測する手法の開発推進と現場実装</p>	<p>① 昭和薬科大学山崎研に構築した in silico 動態予測モデルの実装</p> <p>② 新規腸管吸収予測ツールの適用性把握</p> <p>③ ケースレポート対象化合物の体内曝露予測</p>	<p>① モデル構築に使用されていない新規食品成分の動態データ（ヒト）を用いて、モデルの予測精度検証を実施。「予測精度が低いと想定される化合物群（適用限界）」の特徴を物性値などの in silico パラメータで予想できないか解析中。</p> <p>②、③ 進捗無し</p>	<p>In silico 予測モデルの現場実装を目指し、適用限界の明確化を優先して行う。そのうえで、予測モデルの活用ガイダンス等の整備を年内に行う予定</p>	
<p>データベース WG</p>	<p>食品成分の既存毒性情報（文献等）を収集、活用し、反復投与毒性を予測する手法、システムを開発中。独自に毒性情報を収集することも検討する。</p>	<p>有害性評価支援システム統合プラットフォーム（HESS）を用いた食品成分毒性試験データベース及び使用ガイダンスを含む毒性予測手法の AAT 参画メンバ</p>	<p>昨年までに構築した食品成分の毒性試験データベース（176 種）の有用性検証を目的に Read-across の予測結果と原著論文を用いて POD やターゲット臓器の予測の妥当性検証を 6 月までに実施。本検証から得られた知見を HESS の利用ガイドとして活用できるよう、事例集を作成し、8 月にステアリングコミッティのメンバ</p>	<p>事例集は年内を目途にまとめる予定。また、並行して構築したデータベースの公開に向け、残課題となっている引用文献の登録及び ILSI 外への一般公開における課題整理及び対応を実施予定。</p>	

		への公開	にて内容確認を実施。		
ケースレポート WG	NAMs (New Approach Methodologies) を用いた食品成分の安全性評価戦略を具体化させ、体内曝露予測 WG とデータベース WG の活動と協力し、in vitro assay 系を加えたリスク評価戦略を作成し、ケースレポートとして発信する。	第 1 弾のケーススタディは「肝障害」をテーマとし、ラット肝細胞を用いた試験から in vitro PoD を求め、評価スキームの妥当性を検証する。	設定した評価戦略の妥当性の検証を実施中。In vitro assay 系では、ラット肝細胞を用いた文献報告を活用し、ベンチマークドーズ (BMD) 法にて in vitro PoD を算出する検討を開始。US EPA の BMDS を用い、ソフトウェアの使用法、各種設定について確認すると共に、適切なモデル選択に対する議論を実施中。 In vivo assay 系では、ラットの単回および短期反復投与試験の文献報告を活用し、肝障害に対する LO(A)EL 値を BMR とし、動態予測モデル (体内曝露予測 WG) にて算出した血中濃度を PoD とすることとした。	ラット評価系では、in vitro PoD と in vivo PoD とを比較することで、in vitro から in vivo の予測性の検証を進める。今後、ヒト評価系についても同様な手順で検証を進め、課題を確認・抽出しながら評価戦略の妥当性についての検証を計画している。	
企画運営 WG (国際ワークショップ & シンポジウム WG より変更)	動物実験代替法における各国の技術・規制動向に関する情報を発信することにより、食品業界における代替法の開発や取り組みの推進を促す。	評価技術に関する情報を収集しプロジェクト内へ共有すると共に、プロジェクトの活動内容を学会やワークショップ等を通じて発信する。	2023 年 2 月 3 日に開催した「ILSI Japan シンポジウム 食品領域の動物実験代替 -現状と動向、未来に向けた取り組み-」の内容をまとめたフラッシュ・レポートが、2023 年 8 月発刊の「イルシー」誌 No. 155 に掲載。専門家の先生による講演会や内閣府食品安全委員会との勉強会等を企画するために、プロジェクトメンバーにアンケートを実施。希望分野や講演いただきたい先生等をリストアッ	講演会演者候補の選定とスケジュールの決定。アンケート結果の共有によるコミュニケーションの強化。	

			<p>プした。また、プロジェクトメンバーの専門性等もヒアリングしてリスト化した。</p>		
研究会・部会・委員会・分科会	活動ビジョン・ゴール	年度目標	進捗・課題	予定・行動計画	関連団体等
<p>バイオテクノロジー研究会</p>	<p>バイオテクノロジーを用いた持続可能な食料の安定供給への貢献を念頭に、バイオテクノロジーの重要性の理解を深め、バイオテクノロジー応用食品・作物・添加物等の安全性・活用に関する調査研究と情報提供を産・学・官連携及び国際的ネットワークを通して推進し、科学的根拠に基づく国際的に調和した安全性評価法や活用法の発展に貢献する。</p>	<p>1. ERA プロジェクト調査報告（年4回） 2. バイオテクノロジー応用微生物を利用して発酵生産された食品・食品添加物等の安全性に関するワークショップ 3. 第16回 ISBR（International Society for Biosafety Research）2023への安全性評価の専門家の派遣 4. 遺伝子組換えナタネの ERA に関する研究成果の論文発表</p>	<p>・ ERA プロジェクト調査報告 No. 64号のレビュー、監修 ・ ERA プロジェクト調査報告 No. 65号の論文抄録の収集及び事前監修依頼。 ・ ISBR2023の報告書 ERA 報告書特別号及び「イルシー」誌フラッシュ・レポートの原稿作成。 ・ ERA 報告事業来年度からの新レビューアー先生の契約準備。 ・ 「バイオテクノロジー応用微生物を利用して生産された食品・食品添加物の安全性に関する WS」（2023年12月4日開催予定）準備</p>	<p>ERA プロジェクト調査報告 No. 64号の発行、配布。 ERA プロジェクト調査報告 No. 65号の論文抄録の収集及び事前監修依頼。 ISBR2023 報告書発行へ向けた編纂及び「イルシー」誌へのフラッシュ・レポートの寄稿。 「バイオテクノロジー応用微生物を利用して生産された食品・食品添加物の安全性に関する WS」準備。</p>	<p>農林水産省 厚生労働省 内閣府食品安全委員会 環境省 文部科学省 経済産業省 筑波大学環境系 & つくば機能植物イノベーション研究センター（T-PIRC） 明治大学農学部 国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構（農研機構）作物研究部門 横浜国立大学大学院環境情報研究院 千葉大学大学院園芸学部</p>
<p>栄養健康研究会</p>					
<p>栄養研究部会</p>	<p>「健康寿命延伸」はグ</p>	<p>「健康長寿延伸」</p>	<p>2023年からは、活動テーマを「健康</p>	<p>実績は、以下の通り。</p>	

	<p>ローバルな持続可能な開発目標 SDGs の目標3「すべての人に健康と福祉を」に合致することから、「健康寿命延伸」をキーワードとした活動を継続する。</p>	<p>のための最新のエビデンスを継続して発信していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●公開セミナー(有料)をZoomミーティングで1年に数回開催する。 ●セミナー参加登録者に対しては、オンデマンド配信を実施する。 	<p>寿命延伸に向け、各世代で解決すべき課題と対策とは」とし、「世代別の健康と栄養」に関する公開セミナーをシリーズ化して開催する。</p> <p>進捗は、以下の通り。</p> <p>① 第2回公開セミナー(10月23日 Zoom開催)に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ●お二人の講師の先生に対する講演依頼状等の書類を作成・発信。 ●ILSI Japan ホームページに参加登録サイトを公開(8月23日)。 ●各種学会・団体・協会等に対して、公開セミナーのプロモーションを開始。 <p>② 第3回公開セミナーに向けてお二人の講師の先生とZoomにて面談(7月21日)し、公開セミナーの開催日とテーマを決定した。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●6月23日にZoomにて開催した、第1回公開セミナー「健康寿命延伸に向け、各世代で解決すべき課題と対策とは：妊婦・乳幼児編」の録画動画を参加登録者にオンデマンド配信した(6月30日(金)～1か月間)。 ●10月23日にZoomにて開催予定の第2回公開セミナー「健康寿命延伸に向け、各世代で解決すべき課題と対策とは：小児期編」の参加登録サイトをILSI Japan ホームページに公開(8月23日)。 <p>計画は、以下の通り。</p> <p>第3回公開セミナー「健康寿命延伸に向け、各世代で解決すべき課題と対策とは：中高年期編」を2024年2月16日(金)の午後に開催予定。</p>	
GR プロジェクト	<p>食品・食事の血糖応答性の簡易評価法(GR法)の確立と普及</p>	<p>GR法の確立・発表論文発表</p>	<p>論文投稿準備(共著者レビュー) GR法詳細条件の検討</p>	<p>論文投稿 GR法に関する討論会の開催</p>	
茶類研究部会・茶情報分科会	<p>茶樹に係わりその成分の世界的な多様さ、飲料その他商品に係わり各種茶成分の機</p>	—	特になし	—	—

	能性、研究・開発・商品化等につき会員相互間の情報交換を深めると共に、外部からも情報を得る。				
CHP (Center for Health Promotion)					
Project PAN (Physical Activity and Nutrition) “身体活動と栄養”プロジェクト	超高齢化が進む国内において、働きざかりの人々や高齢者の健康維持を支援する、運動と栄養の複合プログラムの開発と実践	<ul style="list-style-type: none"> ➤ ヘルシーエイジングのためのプログラムの開発・普及 ➤ 介護予防教室の開催（自治体、社会福祉協議会、企業） ➤ 地域リーダーの育成（大学、社会福祉協議会、シルバー人材センター） ➤ 論文等、科学的成果の発信 	<ul style="list-style-type: none"> ➤ テイクテン介護予防リーダー養成講座 ➤ 主催）津和野町シルバー人材センター（8/30, 31 栄町共栄館（津和野町）） ➤ テイクテン介護予防リーダースキルアップ講座 ➤ 主催）益田市シルバー人材センター、津和野町シルバー人材センター合同開催（8/28, 29 豊田公民館（益田市）） ➤ 自主グループ活動支援（8/18 墨田区生涯学習センター） 	<ul style="list-style-type: none"> ● 論文投稿 ● 学会発表 ● 介護予防リーダー養成講座 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 石巻専修大学 ✓ 鹿児島大学 ✓ 島根大学 ✓ 札幌医科大学 ✓ 東京都健康長寿医療センター研究所 ✓ 国立健康長寿医療センター ✓ 墨田区 ✓ 横浜市社会福祉協議会 ✓ 岩国市社会福祉協議会 ✓ 吉賀町社会福祉協議会 ✓ 津和野町シルバー人材センター ✓ 益田市シルバー人材センター
Project DIET (Dietary Improvement and Education with TAKE 10!®) “途上国栄養改	途上国、新興国における官民連携の栄養改善の取組み「栄養改善事業推進プラットフォーム」(NJPPP) のプロジェクトとして、	<ul style="list-style-type: none"> ➤ フィリピン：「フィリピンの栄養強化米プロジェクト2022（調査研究）」2024年パリ栄 	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 実施会社の組織替えがあり、担当者の変更があった。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 2023年度提案について、再度打ち合わせを提案中。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ Food and Nutrition Research Institute (FNRI：フィリピン食品栄養研究所)

善と栄養教育” プロジェクト	工場など職場の栄養 改善プロジェクトを 東南アジア各国で推 進。	<p>養サミットに 向けプロジェ クトの総括を 実施。</p>			
		<p>➤ ベトナム：「ベ トナムにおけ る野菜の摂取 行動に影響を 与える要因調 査」ビジネスモ デル構築、並び に 2024 年パリ 栄養サミット に向けプロジ ェクトの総括 を実施。</p>	<p>➤ 担当者から、「今後、ベトナムで の取組みを深掘りするか、他国 へ展開して新たな取組みを開始 するかについて、現在社内で検 討中」との連絡あり（8/19）。</p>	<p>● 10 月を目途にアジアでの 戦略を練るとのこと。</p>	<p>✓ National Institute of Nutrition（ベトナム栄 養研究所）</p>
		<p>➤ ミャンマー： 「完全オンラ インによるブ ロックチェー ン技術を応用 した職場にお ける栄養教 育」 栄養教育推進 に焦点を当て たビジネスモ デル構築に向 けた展開を計 画。</p>	<p>➤ クーデターによる政情不安は一 層深刻な状況。</p>	<p>● 現地の状況を注視継続。</p>	

		<ul style="list-style-type: none"> ➤ インドネシア:「インドネシアにおける健康的な食事の普及に関する調査 2022」ビジネスモデル構築、並びに2024年パリ栄養サミットに向けプロジェクトの総括を実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 2023年度実施プロジェクトが承認された(8/18)。契約書作成中。 	プロジェクト開始に向け、役割分担を明確化していく。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ ボゴール農科大学 (現 IPB Univ.) ✓ SUN Business Network Indonesia
CHP 全体	日本の産・官・学界に蓄積された栄養学、医学、公衆衛生、衛生環境等の分野における科学的知識および技術を、国内および世界的に共通な課題の解決に活用し、SDGsに基づいた社会貢献を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ➤ SUN Business Network Japan (仮称: SBNJ) 事務局機能誘致に向けた活動継続。 ➤ SDGs 貢献プラットフォームの形成。 	<ul style="list-style-type: none"> ➤ SBN 本部とセミナー開催を目指し、打ち合わせを実施。SBN アジア諸国からの活動紹介を行う予定。 	<ul style="list-style-type: none"> ● ILSI Japan の役割も具体化させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ Global Alliance for Improved Nutrition (GAIN) ✓ Bill & Melinda Gates Foundation ✓ SUN Business Network (SBN) ✓ World Food Programme (WFP) ✓ アジア開発銀行
研究会・部会・委員会・分科会	活動ビジョン・ゴール	年度目標	進捗・課題	予定・行動計画	関連団体等
国際協力委員会	アジアの ILSI 各支部間の交流による食品法規動向及びリスク評価等の情報収集・共	10月26-27日開催 予定の Asia Science Institute Network (ALSIN)	<p><進捗> 2回の委員会開催。</p> <p>7/6 (Web): ・発表課題と担当者の案をほぼ決定。</p> <p>8/24 (ハイブリッド):</p>	<p>9月 原稿作成、完成</p> <p>10月 ALSIN 会議開催 (台湾)</p> <p>12月 振り返り</p>	

	有化と ILSI Japan 関係者への成果報告	会議(アジア地域 ILSI 支部との情報交換会)への参加、情報交換	<ul style="list-style-type: none"> ・発表課題と担当者の案を確定(事務局を通じ、主催者に連絡) ・一部たたき台の確認 <課題> <ul style="list-style-type: none"> ・会議詳細の確認 ・上記を踏まえた演題と発表時間の確定 ・発表内容の確定 		
食品機能性研究会・AI 栄養・機能性研究部会					
AI 栄養機能プロジェクト分科会	実生活から創出される莫大な量のリアルワールドデータについて、最新のデータサイエンスおよび AI 技術を活用し、様々な生活習慣と健康との関係性を解明することで、一人ひとりに適した情報提供を可能とする AI システムを構築する。	<ul style="list-style-type: none"> ・フレイル予測モデル論文化 ・フレイルナレッジグラフ作成 ・ナレッジグラフスキル(育成) ・北大阪健康医療都市(健都)での発信 	<ul style="list-style-type: none"> ○月次運営会議(7月)、(8月)を実施し、プロジェクト全体の進捗確認、課題、スケジュールを確認、更新。 ○論文アクセプト microorganisms 誌 “Ramen Consumption and Gut Microbiota Diversity in Japanese Women: Cross-Sectional Data from the NEXIS Cohort Study” ○予測モデル WG 論文化に向けて解析実施。 ○フレイルナレッジグラフスキル WG にてデータセットをベースに構造化(ナレッジグラフ化)するスキルを習得。 	<ul style="list-style-type: none"> ○月次運営会議による全体進捗管理。 ○AI と食品勉強会(仮題)10月 ○健都見学会10月 ○北大阪健康医療都市(健都)での成果発信は11月の健都フェスをターゲットに調整、内容の構想を継続。 	国立健康・栄養研究所(健栄研)
AI ダイアトロフィ研究部門分科会	数千分子種よりなる食品摂取によるヒトの代謝状態を最新の	<ul style="list-style-type: none"> ・代謝モデルの領域拡大 ・機能伝達経路の 	月例の報告会が、7月24日(月)に、Zoom 及び対面(東北大 NICHe)のハイブリッドで開催された。本プロ	●AI リテラシー勉強会:	東北大学未来科学技術共同研究センター(NICHe: New Industry Creation

	コンピュータ技術と計算科学を活用し、高速で安価に食の機能性・安全性を予測するAIシステムを構築する。	イジングモデル ・AI教育	プロジェクト開始後初めての現地開催であり、企業3社が現地参加した。各種の進捗状況の共有のほか、量子コンピュータ技術に関して現時点での総括、AIリテラシー勉強会ではAlphaFold2 (LocalColabFold) の操作結果に関する企業からの発表2件が行われた。	<ul style="list-style-type: none"> ・AlphaFold2 (LocalColabFold) の操作結果に関する企業からの発表 (第2回)。 ●総説論文の作成： <ul style="list-style-type: none"> ・総説論文第2報 (食品の品質・栄養・代謝におけるAIの活用に関する) を取りまとめており、今期投稿予定。 ●次回9月の報告会は、リモート開催を予定。 	Hatchery Center, NICHe) 東北大学大学院農学研究科
情報委員会・編集部会	<ul style="list-style-type: none"> ・調査・研究活動とその成果の発表 ・科学情報の普及 ・国内外の関連機関との交流・連携 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 活動報告配信 (年6回) 2. 機関誌「イルシー」の発行 (年4回) 3. 「栄養学レビュー」誌の発刊 (年4回) (女子栄養大学出版部との共同事業) 4. 種々出版物発刊のコーディネーター 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 活動報告 <ul style="list-style-type: none"> ・2023年5,6月分配信 (8月)。 2. 「イルシー」 <ul style="list-style-type: none"> ・155号：発行、ホームページ掲載、お知らせメール配信 (8/17) ・156号：編集中 (2023年11月発行予定) 3. 「栄養学レビュー」誌 <ul style="list-style-type: none"> ・121号：2023年8月発行 ・122号：編集中 (2023年11月発行予定) 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 部会活動報告の配信 (1月、3月、5月、7月、9月、11月) 2. 機関誌「イルシー」の発行 (2月、5月、8月、11月) 3. 「栄養学レビュー」誌の発刊 (2月、5月、8月、11月) 	

【事務局からのお知らせ】

理事会	第3回理事会が令和5年7月12日(水)に開催された。 <決議事項>
-----	--------------------------------------

	<p>1. 理事選任</p> <p>津金昌一郎理事の辞任により、後任に同じく国立健康・栄養研究所の瀧本秀美所長が選任され、満場一致で承認された。本人も Web 会議上で承諾した。</p> <p>● 理事長互選</p> <p>前回の理事会に引続き再度の互選の結果、宮澤陽夫会長が理事長を兼任することで全員異議なく承認された。本人もその場で承諾した。</p> <p>< 討議事項 ></p> <p>1. ILSI Japan 論文投稿</p> <p>担当次長より①雑誌投稿中の「TAKE 10!®の有効性を裏付ける島根大学との共同研究」、②10 月末の日本公衆衛生学会総会での発表「地域における介護予防リーダーの栄養素摂取量－同地域在住高齢者との比較」、③鹿児島大学との共同研究の「中高年期における食品（多様性）と体組成、および非侵襲バイオマーカーとの関連性についての調査」の説明があり、若干の質疑があった。</p> <p>2. 次期理事長選出、弊機構の在り方、会員勧誘活動、部会活動等についてのフリー・ディスカッション</p> <p>前回に引続き、各部会活動、広報活動、グローバル組織のメリット、Codex 参加等、出席理事より種々意見をいただいた。</p> <p>< 報告事項 ></p> <p>1. 本部動向 来年開催の本部総会での議題の内容について報告した。続けて議題選出メンバーの説明があり、その中に日本人が参加してなかったのものでその理由を調査することになった。</p> <p>東邦大学医学部朝倉先生より「日本人の食事摂取基準」の使用実態調査への協力依頼の説明があり、理事会メンバー及び研究部会長、事務局の参加を要請した。</p>
事務局	特になし。